

ゴルフエッセー「耳と耳のあいだ」(第71回)

ゴルフブーム、順風のときほどリスクに敏感になろう

2021.06.28



コロナ禍においてゴルフがちょっとしたブームになっているようです。業界誌を読むと、広々とした屋外でプレーするゴルフは3密を回避でき、感染症対策さえ守れば安全にプレーできると認識されたことがその要因と分析している様子。さらに、キャディーを付けないセルフプレーや、ハーフで昼食休憩を挟まないスループレーの導入が進み、格安かつ時短でプレーできるゴルフ場が増えてきました。徐々に若年層の参入が増えていることもブームの後押しになっていると考えられています。

ゴルフ場利用者数は、2020年4～5月の緊急事態宣言中は、さすがに対前年同期比で35%減(580万人減)と大幅に落ち込んだものの、同年8月の対前年比では18%増(126万人増)に転じ、同様に10～12月の3カ月間でも100万人程度の増加となっている(※1)。

練習場の利用者数もゴルフ場と同様に増加の傾向にあるようです。関東エリアの約50施設の対前年同月比の推移を見ると、2020年は10.3%増となりました。2021年に入ってもその傾向は下がらず、1月は11.4%増、2月は10.0%増で推移しています(※2)。

松山英樹選手のマスターズ優勝や笹生優花選手の全米女子オープン優勝が、このゴルフ人気に拍車をかけているようです。ゴルフをする人が増えて業界が活気づくのは良いことですが、一方で、私はこのブームに危機意識を持っています。なぜなら、ブームは一過性で決して長くは続かず、勢いのあるときには意外な落とし穴が潜んでいるものです。ゴルフプレーを例に考えてみましょう。

※1: 月間ゴルフ・エコノミック・ワールド 2021年5月号 P60 を参考

※2: 同誌P82 関東ゴルフ練習場連盟提供の表から数字を参考

リスクを常に意識し、攻め方を工夫する人ほど成長する

比較的高い確率で真っすぐなボールが打てる人は、ボールが曲がったときのリスクを考えずにコースを攻めているケースが多いです。しかしながら、プロでも上級者でも100%ボールを曲げずに打てるという人はまずいません。よって、リスクを想定せずにコースを攻める人は、ボールが予想しない方へ飛んでいって大たたきする結果となります。逆に、ボールがよく曲がるという課題を抱えている人は、慎重故に大きなミスをする事なく、スコアをまとめることができます。

スライス(右に曲がるショット)が多いプレーヤーなら、ティイングエリアの右端にティアップし、フェアウエーの左サイド、もしくは左のラフを狙ってコースを狙って攻めていくでしょう。コースを対角線上に斜めに利用するためプレーエリアを広く使うことができ、多少曲がってもフェアウエーをキープする確率が高まります。想定以上に大きく曲がってしまったも、せいぜい右ラフぐらいで止まってくれます。つまり「ボールが曲がる」という問題点を、攻め方の工夫で克服しているわけです。

バンカーが苦手という課題を抱えている人は、バンカーを徹底して避けるよう攻め方を工夫します。一方、なまじバンカーに自信がある人はバンカーへの警戒心が希薄です。バンカー越えてピンをデッドに狙うなど無謀な攻め方をして難しいバンカーに捕まり、結果大たたきをしてしまいます。

めったにボールは曲がらない、バンカーなんて怖くない、といった過信や慢心がある人は、努力や工夫を怠り、油断を生み、好ましくない結果を招きやすくなります。一方、ボールが曲がる、バンカーは苦手といった問題を抱えている人は、それ相応に攻め方の工夫をするため、良い結果を得られる確率が高まるでしょう。何より、課題意識を抱えている人ほど、向上心と練習意欲のモチベーションが旺盛です。その結果、自身の成長(ゴルフの上達)につながるわけです。

景気の風を読み、次の世代をつくるイノベーションにチャレンジしよう… 続きを読む